



# 福井大学の特色ある取組

---

福井大学は、社会から頼りにされる“元気な大学”の実現を目指します。

2010年4月

創造力、実践力。

国立大学法人

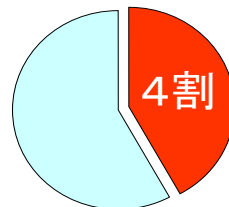
 福井大学

# 1. 教育 ～人づくりを通じた貢献～

## (1) 地域を支える優れた人材の輩出

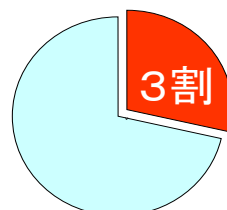
### ■教育地域科学部 —地域の次世代を育てる教員の養成—

- 福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,770人
- うち本学の卒業生数 3,262人



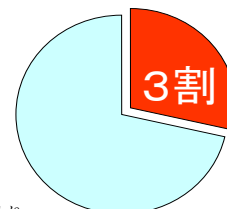
### ■医学部 —地域医療を担う医療人の養成—

- 福井県の医師数 1,768人
- うち本学の卒業生数 504人
- 看護学科では県内で唯一助産師を養成



### ■工学部 —地域産業を創造する技術者の養成—

- 福井県のエンジニア、科学研究者 15,766人
- うち本学の卒業生数 4,527人



※福井県のデータは、教:平成20年度学校基本調査、医:平成18年医師・歯科医師・薬剤師調査、工:平成12年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、いずれも平成20年度時点の同窓会データより

## (2) 優れた教育プログラムの提供

### ■文部科学省が行う大学教育改革支援プログラムにこれまで16件採択



学科・学年の枠を越えた  
少人数グループによる技術者の育成



子ども主体の学習を学生が支援

教員一人当たりの  
採択率は  
国立総合大学中  
3位

H15-19年度実績。福井大学事務局調べ

### ■各学部・研究科の教育活動は、国立大学法人評価委員会からも高評価を獲得

○学部・研究科等の現況分析評価結果（平成16～19年度実績）

教育地域科学部  
57機関中 5位

大学院教育学研究科  
59機関中 3位

医学部  
42機関中 3位

大学院医学系研究科  
41機関中 1位

工学部  
50機関中 4位

大学院工学研究科  
38機関中 1位

※国立大学協会資料「中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果における評定の状況」に基づき福井大学事務局にて算出

### (3) 実践力重視の教員養成教育

#### ■「福井大学方式」：学校現場が大学院

- 小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に
- 米国やフィンランドの教育研究者も注目

#### ■1年間の長期インターンシップ

##### 『福井大学は教職大学院発祥の地』



鷲山 恭彦  
東京学芸大学  
学長・  
日本教育大学  
協会会長

「福井大学は2001年に『学校を拠点に実践的な共同研究を進める』と宣言された。この観点は『学校現場が大学院』という鮮烈なメッセージとして全国を駆けめぐった。教職大学院の根幹コンセプトである。」

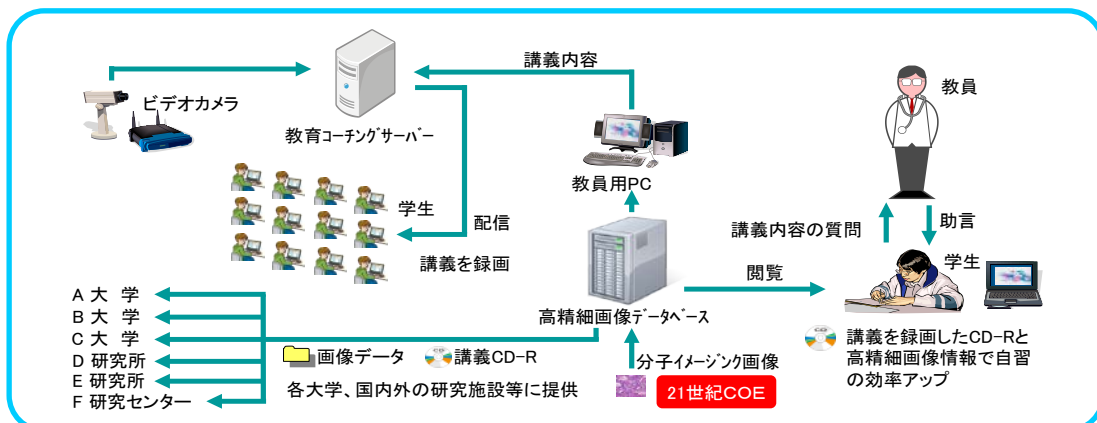
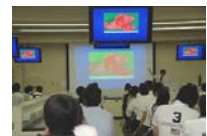


### (4) 世界をリードする画像医学教育

#### ■CT、MR、PET等の画像診断が格段に進展する一方、医学教育での「診断」に関する教育は大きな改革がなされず、求められる知識・経験と教育のギャップが顕在化

#### ■この現状打破のために人体解剖画像、病理組織画像に加え先進臨床画像や分子イメージング画像を統合した双方向対話型先進画像システムを導入

#### ■現代医学と医学教育とのギャップを一挙に解消する世界でも例を見ない革新的な医学教育を実施





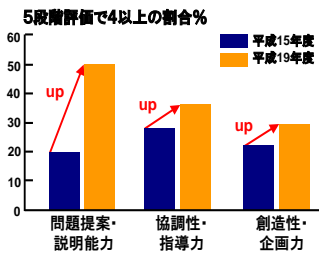
## (5) 実践的能力を備えた技術者の養成

### ■夢を形にする技術者育成プログラム（工学部、GP4件）

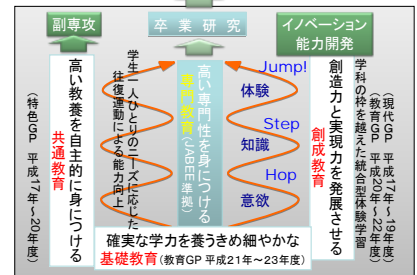
- 広い視野と創造力
- 自分で課題を発見・解決する力
- 企画・提案・説明する力
- 協調する力

➔ 就職先企業からも高く評価

就職先企業に対するアンケート調査(78社)



夢を形にする技術者、IMAGINEERの育成



### ■学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育（工学研究科、GP等6件）

- 大学院教育の実質化
- 多様なプログラムを設定
- 学生一人ひとりに Program of Study Committee
- 個性に応じたカリキュラムのオーダーメイド化
- OMOT教育（創業型実践大学院工学教育プログラム）

採択数は  
全国大学で  
トップクラス

文科省・経産省公募型採択教育プログラム

- 派遣型高度人材育成プログラム
- 原子力人材育成プログラム(2件)
- 中小企業産学連携製造中核人材育成事業
- 学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育
- 国際共学ネットワーク特別コース

## (6) 就職率 国立大学1位を獲得※

### ■就職率97.2%は、国立大学1位（平成20年度実績）

### ■卒業生が1,000人以上の大学では、全ての国公立大学の中で1位

### ■就職委員、就職支援室による きめ細かな支援

- メールでの情報発信
- 企業ガイダンスの実施
- 就職ガイダンス・説明会の充実
- 企業ネットワークの整備



全国 230 大学就職率ランキング(大学院含む・抜粋)

順位	区分	大学(所在地)	卒業生数	就職決定者数	大学院進学者数	07就職率	08就職率	09就職率
1	私立	豊田工業大学(愛知)	118	79	39	96.5	100.0	100.0
2	私立	神戸薬科大学(兵庫)	294	248	42	97.4	97.4	98.4
3	私立	大阪薬科大学(大阪)	345	243	97	95.7	91.4	98.0
4	私立	明治薬科大学(東京)	453	366	78	95.5	96.2	97.6
5	国立	福井大学(福井)	1,199	897	276	93.0	95.3	97.2
6	私立	東北薬科大学(宮城)	395	340	45	94.7	94.8	97.1
7	私立	東京薬科大学(東京)	734	485	232	93.8	95.6	96.6
8	公立	富山県立大学(富山)	228	162	60	98.4	97.4	96.4
9	国立	長岡技術科学大学(新潟)	907	447	441	95.5	91.4	95.9
10	国立	九州工業大学(福岡)	1,692	1,032	615	93.7	94.6	95.8
11	私立	新潟工科大学(新潟)	242	224	8	90.7	94.2	95.7
12	私立	金沢工業大学(石川)	1,717	1,427	225	96.3	96.3	95.6
13	公立	高知工科大学(高知)	544	418	105	93.4	95.7	95.2
14	私立	昭和薬科大学(東京)	260	215	34	93.4	94.9	95.1
15	国立	名古屋工業大学(愛知)	1,712	979	680	91.5	95.9	94.9
16	私立	大同大学(愛知)	718	635	44	94.5	96.9	94.2
17	私立	千歳科学技術大学(北海道)	219	177	29	98.2	97.6	93.2
18	国立	電気通信大学(東京)	1,315	766	491	90.4	96.8	93.0
19	国立	豊橋技術科学大学(愛知)	866	428	404	—	91.9	92.6
20	私立	東京理科大学(東京)	4,261	2,427	1,612	90.6	92.6	91.6

※サンデー毎日 2009年7月19日号「あなたの大学の就職力」より

### (1) 地域特性を活かした世界的水準の研究の展開

#### ■原子力・放射線の平和利用

福井大学附属国際原子力工学研究所  
(平成21年度設置)

- 福井県の「もんじゅ」等世界有数の原子力関係施設の活用を目指し研究を開始
- 高速炉その他の分野で世界トップレベルの研究開発と人材育成を目指す

#### ■高エネルギー医学研究センター

- 21世紀COEプログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」で、世界的水準の研究成果を創出



天野 之弥  
国際原子力機関 (IAEA) 事務局長



高速増殖炉  
もんじゅ

#### IAEA天野次期事務局長

**「原子力平和利用の取り組み」**  
**「福井は世界の財産」**

「原子力の平和利用に取り組み福井は世界の財産です。」1月、国際原子力機関 (IAEA) 次期事務局長の天野之弥さん (62) は福井市内で講演し、高速増殖炉「もんじゅ」や福井大の放射線がん治療の研究などを挙げて、IAEAが目指す原子力の平和利用を実践している世界有数の地域と評価した。講演後は県庁を訪れ、西川一誠知事に「福井には原子力に携わる人材育成に期待しています」と話した。

岡野 穂

福井大学は「放射線がん治療の分野で最先端の研究を推進し、発展途上国に技術指導できる人材も豊富である」と高く評価された。

H21. 10. 2 朝日新聞 25 面

### (2) 特色ある研究の取り組み①

#### ■医学部

- 免疫学・神経科学の論文引用度は、全国の研究機関の中でトップクラス※

※H13～17 免疫学3位。H14～18 神経科学9位。2008・2009 年度版大学ランキング (朝日新聞社) より。  
ISIデータベースにより5年間の論文37万件について引用回数を調査

#### ■遠赤外領域開発研究センター

- 電磁波の中で最後の未開拓領域である“遠赤外領域”の電磁波発生器「ジャイロトロン」を独自開発
- 世界最高記録を10年以上維持。世界で唯一の研究・開発を展開



電磁波発生装置  
「ジャイロトロン」

#### ■医工教連携による子どものこころの発達研究

- 大阪大学・浜松医科大学・金沢大学との連合大学院形成

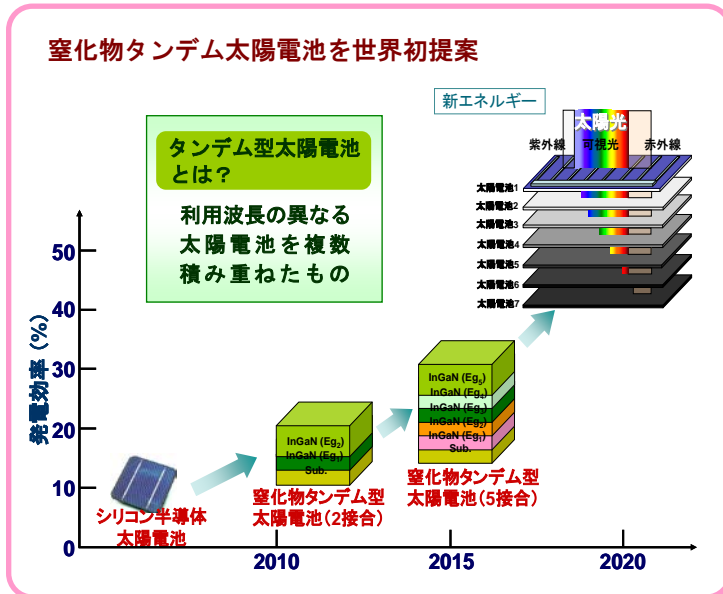


子どものこころの育ちと脳科学  
福井フォーラムの様子

## (3) 特色ある研究の取り組み②

### ■工学研究科

#### ○次世代太陽電池の研究開発



#### 〔その他工学研究科〕 の特色ある研究

#### ○液体窒素冷却高温超電導モータの開発



第4回福井県科学学術大賞  
受賞 (H21. 2. 7)

#### ○リチウムイオン電池の開発



第5回福井県科学学術大賞  
受賞 (H22. 2. 7)

#### ○宇宙太陽光エネルギー利用レーザーの開発

#### ○未来の新しい電力ネットワーク

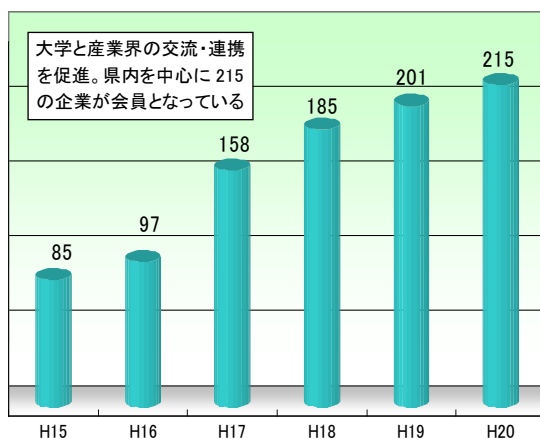
など

## (4) 「福井方式」による地元産業界との連携

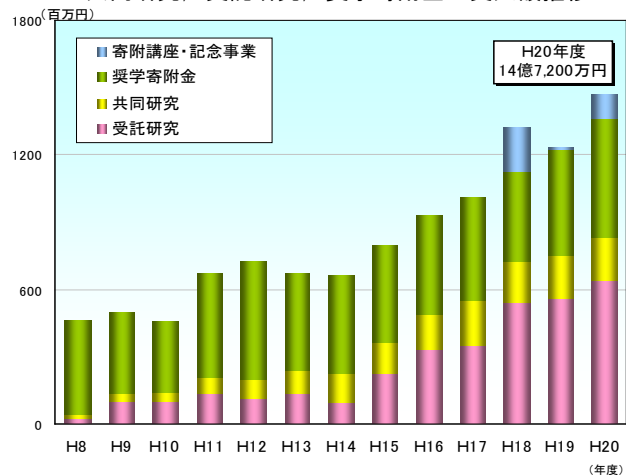
### ■地元産業界との“福井方式”による産学官連携・共同研究プロジェクトを推進

※ “福井方式” とは、  
大学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式

産学官連携本部協力会会員の推移



共同研究、受託研究、奨学寄附金の受入額推移



### 3. 医療 ~すべては“患者中心の医療”のために~

#### (1) “断らない救急”を実現

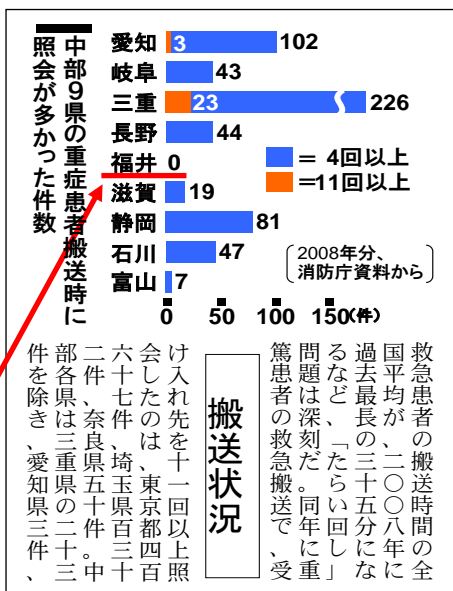
■福井県内唯一の医学部として、県内を中心に153の医療機関に医師を派遣

■大学病院初の北米型（ER型）救急により、  
365日24時間の受入体制を確立

○平成20年度 救急患者延べ数 16,115人



本学附属病院は、全ての患者を受け入れ“地域医療の最後の砦”として、迅速に対応できる環境を整備している。



H22. 2. 16 日刊県民福井 15 面

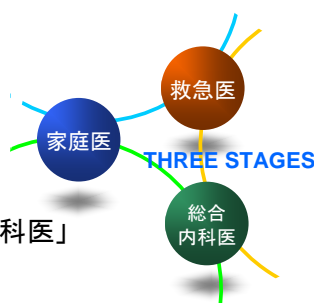
#### (2) 地域医療の担い手とその指導医の育成

■全国でも新しい取り組みである総合診療と救急の統合部門での研修

- 病気からケガまであらゆる症状の患者を診断し、治療する救急外来
- あらゆる疾患を診療できる“総合医”の育成
- 指導医が常駐する地域診療所での研修

3つのステージを用意しながらもそれぞれのチームに壁を作らず日々の診療を行う

- ・ ER型「救急医」
- ・ 一般内科を中心に診療を行う「総合内科医」
- ・ 地域に密着した「家庭医」



■緊急被ばく医療に強い救急総合医の養成

■がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つ医療人の養成



◎ 第1期中期目標期間評価 地方総合大学1位

■福井大学の教育・研究・社会連携・国際交流・業務運営に関する総合評価は、  
国立大学中7位、地方総合大学中1位の評価を獲得

項目別評価点

	教育	研究	達成状況	業務運営	総合評価
福井大学	8.50	3.00	4.00	6.00	54.50
86大学平均	6.05	2.71	3.44	5.77	44.69

※総合評価=(教育+研究)×3+(達成状況+業務運営)×2

福井大学の評価

全国86大学中7位  
地方総合大学中1位  
北信越ブロック1位

第1期中期目標期間評価に関する新聞記事

## 国立大初の「ランク付け」

■国立大運営費交付金の評価反映分

大学名	総合評価 ウエイト	評価反映分 (万円)
奈良先端科学技術大学院	70.00	400
滋賀医科	63.75	300
浜松医科	60.64	250
東京工業	60.18	1600
お茶の水女子	59.93	300
東京	56.87	2500
福井	54.50	300
東京医科歯科	53.26	350
東京外国語	52.89	100
京都	51.30	1300
— (省略)		
山梨	38.18	-450
鳴戸教育	38.00	-150
旭川医科	37.75	-250
宇都宮	37.57	-350
香川	37.20	-550
北海道教育	37.00	-350
鹿屋体育	37.00	-150
琉球	36.40	-800
和歌山	35.50	-350
弘前	35.39	-700

総合評価ウエイトは、教育・研究の水準、業務運営達成度などの評価項目ごとに算定したもの合計。最高値は91.00

### 法人化評価 予算に差

2004年度に法人化された国立大学の研究や教育などを6年間で評価して、各大学の10年度以降の予算に差をつける初の「運営費交付金の評価反映分」の内訳が24日わかった。最も評価が高かったのは奈良先端科学技術大学院大で、低かったのは弘前大だった。大学の予算規模によつて反映額は違うものの、東京大がプラス2500万円が一番高く、逆に琉球大がマイナス800万円と最も削られた。

（編集委員・山上浩一、石川智也） 37面に大学の一覧表

政府は、国立大に基礎的な日常資金として運営費交付金を支給している。今回は、全86大学の交付金計約1兆2千億円のうち、教育や研究にあてる費用を除く、事務局の光熱・通信費などにかかる「一般管理費」の1%分、計16億円を評価反映分原資にあてた。

すでに文部科学省の国立大学法人評価委員会が公表している、①教育水準②研究水準③教育研究達成度④業務運営達成度の四つの評価結果をもとに大学ごとに反映分の基礎になる「ウエイト」を算定。さらに評価反映額を計算し、各大学の拠出額とした。

文科省によると、ウエイトの計算上の最高点は91で、トップの奈良先端科学技術大学院が70だった。滋賀医科、浜松医科と続く。いずれも研究水準や業務運営達成度などが高評価を受けた。これに対して弘前大が35.39で一番低かった。全体で見ると、旧帝大など大規模な総合大学は相対的に上位にある。一方、教員養成系の単科大や地方大はおおむね評価が低く、金額が変わらなかつたり、減らされたりした大学が多かった。

また、評価反映分の増額となつたのは、東京大2500万円のほか、東京工業大1600万円、京都大1300万円が上位で、減額となつたのは琉球大マイナス800万円、信州大同750万円、弘前大同700万円だった。

国立大は法人化の際、1期6年間の評価で交付金に差をつけることを方針として決めた。今回は、教育研究に直接響きにくい一般管理費だったが、特に小規模校では経営に響く可能性が高い。